

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 R7.2				
こどもデイサービスひまわり						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1		・整理整頓がより必要。 ・児童定員10名で2クラスあるため、障害の程度に合わせてバランスよく支援の提供が行えるよう図っていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	3	法人理念である利用者の人権を尊重し「安らぎとゆとりのある心豊かな環境」を保障するという点で職員数がギリギリの状態であるため上記の「」内のことが困難なことがある。ただし、工夫している点として7～18歳の利用者が心地よく過ごせるように時間差を作って室内を使用している。	年齢の低い児童に対する職員配置の問題が見られるため、常にバランスを考えながら2グループの運営を図っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		整理整頓に務めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		整理整頓に務めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		休憩するエリアをその都度作っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		できる限り情報共有を図り、困難な時は引継ぎノートを用いることで対応していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				外部評価を導入していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		年に1回法人全事業所が集まり、研修会を開催している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		モニタリングにて状況を整理し、児発管を中心に支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		モニタリングにて状況を整理し、児発管を中心に支援計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	1		より職員間で話し合いの時間が持てるように場を設けていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		フォーマルな評価キットを積極的に使っていきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	今年度に新しく様式の変更となったが、その変更に沿って、本人・家族のニーズに沿った支援計画を作成している。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1		担当を中心にチームにて確認している。よりチームで共有ができるように時間を作っていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1	職員会議にて活動について検討している。同じような活動形態にならないように工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7	1	創作活動や地域交流の機会の提供などは、放課後では時間にゆとりを持ってないことがある。表現する喜びを体験できるように、できるだけ自然に触れさせるといことは、長期休業時でないと難しい現状がある。余暇の提供については、iPadやDVDで過ごすことがあるため、個人の能力の向上や想像力を養う時間にあてることができるよう工夫したい。精神的肉体的疲労の回復の時間も大事と思っている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3		特定の機関等との連携・強化はあるが、その他の機関との連携については十分でない部分があるため、連携強化に努めていきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	1	なるべく担当と児発管を中心として、学校機関などとの情報の共有を図ることを行なっている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	3		保育園の情報は相談員からが中心となるため、今後の課題である。様々な関連期間との連携を図っていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		部会研修には積極的に参加を行なっている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	コロナ前は地域との交流に餅つき会を開催し、交流を図っていた。	限段階では地域の交流は検討していないが、今後、必要時には検討を行なっていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3		様々な研修会にできるだけ参加できるように対応していく。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8				

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3	ペアレントトレーニングに関する情報を保護者が閲覧できる専用スペースを設置している。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		できる限り児発管から説明をしてもらっている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		時間をかけて聞くようにしている。時間の工夫として時折電話支援を行なう。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	5	保護者同士の活動の支援はないが、モニタリングを通して個々の保護者支援は充実していると思う。	コロナ禍前のように保護者が集える場面設定を図ってきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	1	毎月、活動の概要や行事予定表（カレンダー）をインターネットを用いて掲載している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	2		コロナ禍前のように保護者が集える場面設定を図ってきたい。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2	災害訓練については、今年度は法人内で実施済みである。また、感染対策や事故の防止について文章を発出し、対応周知とした。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	2	今回、法人全体のBCPに基づく災害訓練を実施した。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	1	契約時にアレルギーの確認をしている。おやつ等食事提供時に十分に注意をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1	安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を取っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1	支援計画説明時に安全確保についての説明を実施している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	1	引継ぎノートなどを活用し、ヒヤリハットについての周知と今後の対応について検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止については常に細心の注意をしている。また、整理整頓を意識し、風通しの良い職場作りに努めている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8				